

# タイの重度肢体不自由児向け強化段ボール 座位保持椅子の研究開発および実証試験

アジア姿勢保持プロジェクト

〒105-0014 東京都港区芝 2-2-12 ローヤルマンション金杉301

## 助成事業の概要

今回助成を頂いた事業の目的は、タイでこれから普及する強化段ボール製座位保持椅子の、現地のニーズに合ったプロトタイプ完成である。本年4月から椅子のデザイン、実証試験（9月、タイの理学療法士を対象とする姿勢保持ワークショップで教材として使用）計画のアウトラインを作成、6月に試作品をデザインし製作、7月に実証試験の会場であるタイ・マヒドン大学理学療法学部へ持参し同僚の教官と検討会を開催した。その結果、ティルト・リクライニング機能へのニーズが高いことが判明し、デザイン的大幅な変更が必要となった。帰国後、8月にデザインのやり直し、日本で実際に肢体不自由児を対象とする実証試験を行い、姿勢保持に必要な支持部パーツのパッケージを作成、またその製作や活用のための教材資料を作成した。9月27～29日の実証試験（姿勢保持ワークショップ）では、タイの地域で生活する、様々な障害を抱えた肢体不自由児7名を対象に、実際に座れるまで製作および調整を行い、実用に耐えることを確認した。実証試験終了後、日本側関係者による評価、タイ側での実証試験参加者へのアンケート集計結果を待って、10月9日に事業が完了した。

## 事業の成果

本事業の最大の成果は、タイに安価で様々な身体障害に対応する姿勢保持機器をもたらしたことである。これまでも段ボール箱などを利用し

た製作例はあったが、普通の椅子では安定して座れない、脳性麻痺など重度の肢体不自由に対応できる座位保持椅子で、しかも専門的な製作設備や工具なしに作れ、自在に調整でき、かつタイの最低賃金レベルでも自費で購入できるものは、おそらく例がない。

デザインにおいては、強化段ボールで製作可能かつ堅牢性を備えたティルト・リクライニング機構、および強化段ボール素材やタイの環境に合った支持部パーツを開発できたことが大きい。これに関しては、タイ側専門家のニーズと日本の姿勢保持専門家の技術的な蓄積の協同作業と言える。じっさい、実証試験（姿勢保持ワークショップ）においても、今回の椅子は大きな驚きと好評をもって迎えられた。実証試験後のアンケートでは、参加者25名のうち9割超が内容に「たいへん満足」、この椅子が「たいへん役に立つ」と回答している。タイの病院や特別支援学校で活動する理学療法士にとって、重度肢体不自由児のための適切な機器がないことは、知識や理想と現実の大きなギャップ、悩みの種であり、それに適確に応えるものを提示できたことは、事業実施者にとっても大きな喜びである。

## 成果の広報・公表

今回開発した椅子の存在および性能は、実証試験（姿勢保持ワークショップ）参加者（北部パヤオ県から南部プーケット県まで全地域をカバー）を通じてタイ全国の障害児施設、病院、理学療法士に伝えられた。また実証試験終了と同時に継続

的な製作、評価、情報交換のためのSNS サイトが立ち上げられ、10月末現在で90台近くの新規発注の希望が出ており、また来年度、同様のワークショップ開催を望む声も多い。

## ■ 今後の展開

---

今後は、タイの強化段ボール製造者と連携し、安定的な供給体制を整えていくことが一つの課題である。また現場での製作、使用をモニターしてデータ、評価を収集し、製品や教材資料に継続して改良を加えていくことも、事業実施者の責任の一つであると考えている。また来年度はモニタリングと連動してタイの、とくに地方の特別支援学校の理学療法士に向けたワークショップを通じて、機器および姿勢保持の普及を図り、タイの障害児・者が一人でも多く寝たきり生活から脱却し、より健康で豊かな生活を実現することを願っている。